

平成30年度

「運営に関する計画」

大阪市立勝山小学校

平成30年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査の結果から、国語科では、文章と図とを関連付けて、自分の考えを自分の言葉で書くことに課題が見られた。また、算数科では「図形」領域で筋道を立てて量を比較しその理由を記述することが難しかった。どちらにおいても、「書く」ことへの抵抗感があるようで、それを減らすためにも、基礎・基本の学力をさらに向上させるとともに、指導法や個別支援の方法をより工夫していく必要がある。加えて、児童の豊かな表現力、論理的な思考を高める指導を継続的に行う必要がある。
- 小学校学力経年調査の結果から、話し合う活動において、自分の考えを伝えたり、自分の言葉で表現したりすることに抵抗感がある児童も多く、考えを深めたり、広げたりするまでには至っていない。アクティブラーニングを取り入れた、言語活動や表現活動の場をあらゆる機会をとらえて取り入れていく必要がある。
- 体力テストの結果から、敏捷性にかかる運動、ソフトボール投げの力が一部の児童で弱いことがわかった。平素の体育学習において運動量を確保し、指導内容を工夫して、児童の体力向上を図っていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ・ 平成29～32年度の年度末の校内調査において、学校の認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- ・ 平成32年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- ・ 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- ・ 毎年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- ・ 平成32年度の学校生活アンケートで、「自分の考えを進んで発表していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- ・ 平成32年度の学校生活アンケートで、「本を読むことが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・ 平成32年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成28年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・ 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下の児童を同一の母集

団で比較し、いずれの学年も平成28年度より減少させる。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・平成32年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・平成32年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成28年度より増加させる。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を前年度より向上させる。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- ・平成32年度のアンケート調査において、「食後の歯みがきがきちんとしてできている」と回答する児童の割合を95%以上とする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- ・平成32年度のアンケートの「1年間をふりかえって、食べられるようになったものがありますか」の質問について「何でも食べられる」「食べられるものが増えた」と回答する児童の割合を85%以上にする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校・家庭・地域)の実現】

全市共通目標

- ・本年度末の校内調査において、学校の認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

- ・本年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を91%以上にする。

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

- ・本年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。

(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

- ・本年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年より減少させる。(安全で安心できる学校、教育環境の実現)

学校の年度目標

- ・本年度の学校生活アンケートで、「自分の考えを進んで発表していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。

(施策2 道徳心・社会性の育成)

- ・本年度の学校生活アンケートで、「本を読むことが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・ 本年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・ 本年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・ 本年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・ 本年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・ 本年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボールなげの平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

学校の年度目標

- ・ 本年度のアンケート調査において、「食後の歯みがきがきちんとできている」と回答する児童の割合を88%以上とする。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)
- ・ 本年度のアンケートの「1年間をふりかえって、食べられるようになったものがありますか」の質問について「何でも食べられる」「食べられるものが増えた」と回答する児童の割合を80%以上にする。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立勝山小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 - 本年度末の校内調査において、学校の認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) - 本年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を91%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) - 本年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) - 本年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) - 本年度の学校生活アンケートで、「表現することが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成) - 本年度の学校生活アンケートで、「本を読むことが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 生活指導面で課題がある児童について報告し合って共通理解を図る。 指標 月一回、連絡会を実施する。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校のきまりを守ることを中心に生活目標を設定し、指導にあたる。また、強調週間を設け、全職員で日常的に指導する。 指標 生活目標を毎月設定する。年3回「廊下・階段の右側歩行」の強調週間を実施し、校内放送の呼びかけ、「歩こう運動」の実施、校内看護で指導していく。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 表現力や豊かな感性を育むために、研究教科を音楽科にし、全学年で授業研究に取り組む。 指標 音楽科を中心に授業研究を9回以上実施する。また、全校での音楽集会を6回以上行う。	

取組内容④【施策３ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 読書習慣の定着に向けた読書タイムや読み聞かせなどの取り組みを実施する。	
指標 火曜日・金曜日の読書タイムを充実させ、学校図書館補助員の活用を週１回 学校図書館ボランティアの活動を月に１回は行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立勝山小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上】 - 本年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) - 本年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) - 本年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) - 本年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) - 本年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボールなげの平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。 (施策7 健康や体力を保持増進する力の育成) - 本年度のアンケート調査において、「食後の歯みがきがきちんとできている」と回答する児童の割合を88%以上とする。 (施策7 健康や体力を保持増進する力の育成) - 本年度のアンケートの「1年間をふりかえって、食べられるようになったものがありますか」の質問について「何でも食べられる」「食べられるものが増えた」と回答する児童の割合を78%以上にする。 (施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実を図る。 指標 学校アンケートの「授業はわかりやすい」の項目で「はい」「どちらかといえばはい」と答える児童を90%以上に維持する。	
取組内容② 【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童が一人で学ぶことができる学習教材を提供し、活用する。 指標 水曜日に漢字・計算タイムを設定し、基礎・基本の定着を図る学習教材を活用する。	

取組内容③【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 指標 ペア・グループでの話し合い活動を国語科・算数科を中心に、低学年は1日2回以上、高学年は1日3回以上行う。	
取組内容④【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 放課後・休み時間を活用した学習機会の支援を行う。 指標 放課後・休み時間に各学年の実態に応じた個別の学習指導を行う。	
取組内容⑤【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 ボールを使った運動を通して、投げる力を伸ばす活動を計画的に行う。 指標 ソフトボール投げの記録を前年度より向上させる。	
取組内容⑥【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 食後の歯みがきが、むし歯の予防だけではなく健康の保持増進につながるという意識の定着を図るために、給食後の丁寧な歯みがき指導や保健指導に取り組む。 指標 毎月、健康週間を設定し、自己評価を継続することで歯みがきの習慣化を図る。	
取組内容⑦【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 苦手なものがあっても食べようとする意識を育てるために、委員会活動などを通して、子ども同士が食に対する意識を高められるようにするとともに、食に関する指導に取り組む。 指標 委員会活動や食に関する指導の全体計画・年間指導計画をもとに実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	